

今後行われるセミナーのご案内

①【旧東海道の電線類地中化を考える懇談会】

<日時> : 5月14日(土)

<会場> : 大津市中央市民センター

(<http://www.city.otsu.shiga.jp/www/contents/1007454538858/index.html>)

滋賀県大津市中央2丁目2-5

077-526-4835

<主催> : NPO 電線のない街づくり支援ネットワーク

<共催> : 大津市都市再生部自治再生課、中央区自治連合会

<参加費> : 無料

<プログラム> : ご挨拶 : 酒井英夫(大津市中心街活性化協議会会長、中央学区自治連合会会長)

報告1「電線地中化の効果について」 井上利一(NPO事務局長)

報告2「旧東海道における地中化のねらいと方法」 高田昇(立命館大学教授)

②書籍『電線のない街づくり』1周年記念セミナー～防災から考える電線類地中化について～

<日時> : 6月23日(木) 19:00~20:30

<場所> : キャンパスポート大阪 ルームE (<http://www.consortium-osaka.gr.jp/>)

大阪市北区梅田1-2-2-400 大阪駅2ビル4階

06-6344-9560

<参加費> : 会員様 無料 一般 1000円 学生 500円

<講師> : 室崎益輝先生(関西学院大学教授) ※予定

高田昇理事局長(立命館大学教授)

<内容> : 当NPOが出版した書籍『電線のない街づくり』が出版して1周年を迎えるのを記念して、

『書籍1周年セミナー』を行います。

セミナーの内容と致しましては『震災が起こった時電柱がある場合の危険性』という防災の観点でセミナーを行います。今回の東日本大震災で改めて防災の大切さ、電柱の恐ろしさを知りました。そこで防災のスペシャリストであるお二方に今回の実際に今回の件も踏まえて今後日本は防災面ではどうしていくべきかという事を、電線類地中化のお話中心にさせていただきます。

◆お申込み記入欄(こちらにご記入の上、事務局までご返送下さい。)

NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 行

Mail: info@NPONPC.org FAX 072-653-5833

①所属②名前③メールアドレス④会員 or 一般 or 学生⑤書籍の要・不要

⑥希望するセミナー名⑦懇親会の参加・不参加(1周年セミナーのみ)

✍ [エッセイをお寄せください。] ✍

皆さんが日本の電柱・電線社会の現状について感じられていることをエッセイとして綴り、お送りください。

本会報の【随想】欄に掲載させていただきます。

1000~1500文字、簡単な自己紹介(お仕事、住所等)とポートレート(顔写真)を添えて下さい。

送付先はE-Mail: info@NPONPC.org です。 投稿をお待ちしています。

NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 井上、志熊、根井、森山

「私達」が住む日本の空を、「私達」が美しい空へ変えましょう!

美空~MISORA~

第33号

発行日:2011年4月27日(水)

発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事長 高田 昇

【理事会活動報告】

平成23年4月21日(木)COM計画書で理事会を行いました。今回の理事会では前回決定した3つの各委員会の方に、今年度の事業計画案を発表して頂きました。まだ最終決定ではありませんが、今回発表された内容は以下の通りです。

【技術開発委員会】山本理事、森理事、井上会員

活動目的:我が国における電線類地中化の簡易化に関する可能性を、主として技術面から調査研究を行う。

①NPOメーカーの共同開発の普及推進

②さらなる新技術の調査開発

地中化推進国であるヨーロッパやアメリカの技術情報を入手し日本国内への適合化検討を行う

【世論形成委員会】木村副理事長、長谷川副理事長、荒関会員

行政・自治体・ディベロッパーを対象にした大型のセミナーを東京・大阪で年に1回ずつ開催する

【事業協力委員会】高田理事長、井上事務局長

①電線類地中化を行う大津市と連携・協力を行う

②大阪府と連携による各市町村との勉強会の実施

③茨木市立命館大学大阪キャンパスへの提言



NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 (株)ジオリズム内 根井 井上

Mail: info@NPONPC.org、 <http://nponpc.org>

Tel: 072-653-5811 Fax: 072-653-5833

旧東海道のにぎわいを今に

今、大津市は都市再生のために、大津市中心市街地活性化基本計画という計画をたて平成20年9月から平成25年3月までの大がかりな事業を行っています。当NPOの高田理事長が「大津百町の歴史的資源を活かしたまちづくり研究会」座長を行っておられる事業で5月14日にNPOが開催する【旧東海道の電線類地中化を考える懇談会】の告知も含めて、今回は大津百町について掲載しました。

■大津百町とは

大津市の中心街は古くより琵琶湖の水運と東海道、北国海道(西近江路)が交差する交通の要衝であったことから、中世・江戸時代より京都・大阪方面に米・海産物を取り次ぐ問屋街、東海道の宿場町として繁栄していきました。そして元禄時代当時に宿場、門前町として発展した旧大津の賑わいを当時あった町の数が100あったことにちなんで「大津百町」と称しました。

■大津市百町の歴史と特性

江戸時代後期には旅籠屋71軒、本陣2軒、脇本陣1軒があり、1万8700人もの人口を擁した東海道屈指の都市でもありました。

大津百町は、1586年頃の城下町の中にすでに何町かの町名が存在していました。その後1600年関ヶ原の戦いで大津の町が焼けた後、商業都市として再生させようと、離散した住民を呼び戻し、通り沿いに町家が作られていったことから発展してきました。大津百町は、湖岸に並ぶ荷揚げ場や石場の港を中心とした港町、旧東海道の八丁通りと札の辻を中心とした宿場町、大門通周辺を中心とした三井寺の門前町として発展していきました。そして以前は城下町でもあったことも含めれば、多様な町の成立要素が重層的に都市形成の背景となっており、そのことが他に類を見ない歴史的な価値をもつ都市となった所以であるといえます。

旧東海道整備の修景シミュレーション



■地中化計画について

コスト面から今の段階で大津百町全域を地中化することは厳しいため、将来的には大津市百町全域への波及を目指しつつ、まずその動機付けとなるよう、旧東海道を軸とした整備方針をたてることにしました。そこでまず、旧東海道そのものの道について歴史的な位置づけして印象を強く打ち出すことを狙って、電線類を地中化するとともに路面の舗装や案内・説明板などにより統一した修景を行います。そして並行して沿道の建物についても修景を促します。地域の人の生活に配慮するため約200mずつに分けて事業化をしていく予定です。

今回大津百町は5月14日当NPOが懇談会を行います。興味のある方は詳細を裏に記載しておりますのでご確認の上お越しく下さい。



当NPOではメールマガジンも配信しており、電線地中化に関するコラム・情報を月2回お楽しみいただけます！ぜひこちらにもご登録ください！
→ <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

当NPOのHP(ホームページ)でも、最新情報を詳しく載せていきますので、ぜひこちらへもアクセスしてください！
<http://nponpc.org/top.aspx>

